

\*\*\*\*\*

日本を取り巻く情勢は、とかく物騒なことが多い昨今である。

日本は聖徳太子の時代から「和をもって貴しと為す」。支那の指導者は、隋・唐・宋の時代から「戦をもってねじ伏せる」のが、長い歴史をみてもそれを証明している。

しかし、騎馬戦が得意の蒙古族・満洲族にやられ、蛮夷の国で格下と思っていた東夷に、日清戦争で大負けし、支那事変では表向きは勝ったものの、東夷は米国に負けただけだから雪辱した気分には全然ならない。便秘みたいにズーッと不快感が残り、「スッキリ」としない。悔しいから、アレコレ騒いで日本を叩いてみたが、日本の企業は、うんざりして中国へ投資しなくなり、支那経済は傾き始めた。慌てて日本叩きを抑え始めたものの、「冷めたギョーザ」に、日本人は白けている。

中国が発展し、国際社会の一員としての責任を果たすことは、アジア太平洋地域の安定と発展に望ましいと考え、日本は総額 3 兆円に余る政府開発援助と、改革・開放政策を支援してきた。

にもかかわらず、感謝の一言も聞いたことはない。支那の歴史や為政者の宗主国意識は今の共産党/習近平の中国に、いつまでも付きまとう。

尖閣諸島のネコババを試みたり、南シナ海を埋め立てて軍事基地化を企む習近平と、ならず者の北朝鮮の金正恩の核に恐れ、安倍首相は平和憲法まで改変を試みようとする。米国を同盟国と安心し、世界の各地で米国が展開する戦いに、自衛隊を投入したら、隊員や現地企業の人たちを人質にされるばかりか、核弾頭が日本列島に飛んでくる。

トランプが北朝鮮を追い込んでみても、北を育てたロシアのプーチンが黙って傍観する筈はない。かつて、終戦の間際に、北方領土をネコババしたロシアが、何だかんだと難癖をつけて返還もせず、おまけに北方開発に投資させようと企んでいる。

かつての太平洋戦争で、米国の石油制裁に耐えかねた日本軍が、特攻隊で真珠湾に突撃したではないか。北朝鮮の核を乗せたハイジャック機で首都ニューヨークに激突されたら、ひと溜まりもない。朝鮮半島を南北に分断させた米国とソ連(ロシア)の朝鮮戦争の「落とし子」だから、アル・カーイ

ダのマンハッタンビル激突事件を教訓とすべきでないか。

また、安倍首相や岸田外相は、これまで世界に向かって「核禁止」を大声で叫んできながら、米国の核の傘を頼み、「核兵器禁止条約会議」に不参加を表明するのは、世界の国々が不思議がっている。米露中仏等に、核を棄てさせる努力こそ、被爆国日本の役割ではなかったのか。世界の「核廃絶の叫び」が泣いている。

米国の核の傘のもとで、日本は果たして再び核の巻き添えにならない保証があるのか。原爆を受けて原爆遺跡になるのは、まっぴら御免だ。

とかく、利害の対立しやすい隣国間は、政治・外交・領土問題・経済摩擦で、ぎくしゃくとした問題が多い。古代も今もその状況は、基本的に何ら変わらない。まさに、「歴史は繰り返す」現状を目の当たりにみる。

ともあれ、中国や韓国・北朝鮮とは、今はもう言語や文化は違っても、ルーツは同じモンゴロイドの同胞ではないか。

過去の歴史に拘ることなく、小異を捨てて共存共栄の道を探っていくことこそ、東アジアのみならず、地球人類に課せられた最大の責務ではないか。隣国との諍を繰り返している場合ではない。

危機が予測される昨今の地球環境の問題も、国際協調なしには到底、解決し得ない。

「天下太平 萬民豊楽 同心協力 人心救済 萬靈感謝 祈禱冥福 乃至法界 平等利益」と、先人が説くではないか。

人は、歴史のひとつまに生まれ育ち、歴史を育てていく。蟹は己の甲羅に似せて穴を穿つが如く、ある人は大きく、あるいは小さく、深く、または浅く、それぞれ分相応に様々な足跡を描いて、この世を去っていく。己の利権を偉そうに主張する人も、僅か百年たらずで土になる。

折角、この世に生まれたのだから、世間や人の役に立つという程の大袈裟なことでもなくとも、互いに「和をもって」生きてさえいけば、核戦争や大きな諍も起こらないと思う。果たして、この考えは少し甘いと言われるか。

平成 29 年 5 月 外野席の眩き, 山下重良

\*\*\*\*\*

山下重良著:[古代日本原記] 人類誕生と日本人の先祖, 日本建国の黎明期に活躍した人々 ▼

<http://www.syamashita.net/history/>

山下重良編: 日本の果物を育てた「果樹農業の発達史」▼ 付: 「百果是真味」

<http://www.syamashita.net/history/Fruit/>

外野席の眩き

\*\*\*\*\*